

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

上北泉村のこと	P 3
関東ランチ始動!	P 5
貝澤さん『二風谷ダム』を語る	P 6



ヤオトンの内部。隣の部屋にかまどとオンドルがあり、そこで昼食をごちそうになった (撮影: 橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc.

あなたのご参加を待っています!

1996・7

48

深刻化する沙漠化

「黄河、干上がる」という写真つきの朝日新聞記事に驚かれたかたがあると思います。環境問題の本では以前から取り上げられていましたが、一般にはあまり知られていませんでした。中国人に聞いてみても、知っている人は少数です。

この10年ほど、流域の雨量がだんだん減ってきたうえ、灌漑や工業、都市生活などに水を使うため、中国文明を生みだした母なる大河も干上がってしまうのです。去年は、河口から約600kmの河南省開封まで干上がり、今年はその上回って、1,000kmまで水がなくなるかもしれない、とのことです。

つい先日、北京在住の日本人女性からファックスがはりました。

「北京のテレビが、環境問題についての番組を放映しました。いちばんの

環境問題はなにかという問いに、だれも答えられなかったのですが、正解は『沙漠化』でした。北京の空気の汚さには辟易しているのに、『大気汚染』だろうと思っていたのですが……」とあります。

私たちの緑化協力地・大同を流れる桑干河も、春から初夏にかけて水がほとんどありません。もともと桑の実のなる時期に乾いているから、この名前がついたそうですが、地元の人たちは、以前はこれほどではなかったといえます。

この河のばあい、私のみるところでは、主たる原因は農業灌漑です。春に雨が降らないので、収穫をあげるためには、河の水をひきこんで灌漑する以外に方法がありません。そうすると下流に流れる水がなくなってしまうのです。

この会報の大同からの報告に、果樹

園建設のために唐河の水を使うことが書かれています。そうしないと内陸部の貧しい農村は生きていけないのですが、それはまた下流の水不足を深刻化させることになります。

地下水利用が引き起こす問題も深刻で、北京あたりでは以前は地下5mで水がでたのに、いまは50m掘らないといけないという話もあります。

発展途上地域では、「食べることがいちばんだ。経済発展と汚染がセットだとしたら、自分たちは汚染がほしい」という意見さえ、以前はありました。しかし、沙漠化問題に典型的なように、いま環境問題は、食べることの根本を直撃しつつあります。

世界的な異常気象と、その一つの現れ方としての沙漠化。その原因に地球温暖化があるのはもはや確実でしょう。ややもすれば環境問題で対立しがちだった「南北」が共通の土俵に立たされつつあります。それだけ問題が深刻化してきたということです。(高見邦雄)

『共存共貧』の未来は可能か

長坂 健司 (大学院生)

さる5月15日、大阪市立阿倍野市民学習センターで榎田劭さんの講演会『環境・社会・人間～混迷する21世紀を前に』がひらかれました。



約50人の参加者が熱心に耳をかたむけた

今回の講演会は、平日に大阪で行われるということで京都にすんでいる私にとって楽ではなかったものの、環境問題について興味があったので参加することにしました。

講演の内容自体に触れることは字数の都合もあるのでしませんが、先生の講演にはところどころ大胆なコメント

があったものの、環境問題や、人口問題にたいする考え方には基本的に共感できました。

私がかつても深く考えさせられたのは、地球環境の維持と人間の存在との矛盾をどう克服するのかということでした。人間が、火や言葉、道具の使い方を身につけることで、地球環境を安定に保つ生態系ピラミッドから外れた存在になったと先生が述べていましたが、生態系のピラミッドから外れたということは、天敵を持たずに拡大を続ける唯一の動物になったということの意味しています。人間を動物の一種類であると考えれば、例えば医学の進歩による乳幼児死亡率の低下も種の保存・繁栄を求めるといふ動物の本能のなせる業であるといえるでしょう。人

間の視点からいえば、このような医学の進歩は素晴らしいことですが、生態系全体のバランス、または地球環境の維持という視点からいえば別の考え方があるかもしれません。

私は最近、このように地球環境問題とは、人間である私にとって残酷な結論を導きかねない命題であるという恐怖を感じずにいられません。講演で先生は、人間は近々亡びゆく動物であるとおっしゃっていましたが、そのコメントの意味するところは将来、人間の数が食糧不足などで強制的に減らされていくということなのです。人間としての自己防衛本能が人一倍強い私としては、こんな結末が待っていると考えるのではありませんが、現在の人間の行動パターンから単純に帰納していくと、人間の現在の消費の水準を特に先進国を中心にかなり落としていかないと、この結論を否定するのは難しいように思えてなりません。皆さんはどう思われるでしょうか？

お知らせ：会報『緑の地球』は8月は休刊です。また、GEN事務所は8月11日から18日までお盆休みをいただきます。



上北泉村のこと

祁学峰 (緑色地球ネットワーク大同事務所長)

上北泉村は太行山脈のなかの人口500人たらずの小さな村で、霊丘県南山区紅石塹郷に属しています。今年の春、この村で植樹をしているときに私たちは考慮すべき問題を発見しました。

荒れ山の緑化が成功するかしないかのカギは水の問題です。黄土高原の東端に位置する大同地区(霊丘県、広霊県など7つの県を含む)は、10年のうち9年は旱魃で、年間降水量は400mmにたりず、ことしの春の降水量は5月中旬までに20mmになるかならないかの状態です。このように深刻な旱魃は、村人の農業生産にたいへんな困難をもたらすと同時に、私たちの植樹活動にも重大な課題をつきつけています。

霊丘県を流れる主要な河川に唐河があります。上北泉村のあたりでは、この河はかなりの急流で、めぐる日、め

ぐる年、隣接する河北省へと、ただ流れ去っていき、だれもその水を利用することができません。

ことしの6月、私はふたたびこの村にいき、そこの農民たちと唐河の水をなんとか利用できないものかと相談し、2つの策を講じることに決めました。第1に、資金を集めてポンプを設置し、唐河の水を近くの山の上まで汲み上げ、第2に、山の上に貯水槽をつくります。こうすれば植樹した木に水をやる問題を解決することができます。

このことを通じて、私はつぎのように考えました。貧困な山村の立ち後れは、物質的な面にあるだけでなく、人々の考え方にもあるということです。黄土高原で緑化活動を展開しようとするれば、たくさんの困難がありますが、人間がちゃんと頭を使えば、方法はた

くさんあります。問題はどうやって人びとが頭を働かせるかということであり、それがもっとも困難なことでもあります。私たちが緑の地球ネットワークといっしょにすすめている緑化協力の過程は、まさにそのような活動でもあるのです。



上北泉村の小学校で(1995年夏)

武田尾の自然を満喫

6月2日、まぶしい新緑の下を石原先生と小学生もまじえた25名、JR生瀬駅を出発。

車道はずれて廃線跡にはいる。レールはずれに取り除かれていて、残った枕木の上を歩く。枕木を渡り歩くりズムって懐かし〜い。そのうち線路脇の草や低木がはみ出してきて、人間は枕木のはしっこを身を寄せて通り抜ける。車が通らなくなって10年、自然に戻りたくってがんばってるんだなー。梅雨があって蒸し暑くてうっとおしく



足を止めては石原先生の説明に聞いている

佐藤 奈美子 (主婦)

て。でもこれが日本の緑の源なんだから感謝なくっちゃ黄土高原の人たちに申し訳ない。

おやっ、水の音がする。足元をのぞきこむ。と、大きな岩の間をしぶきをあげて水が流れていく。でも「清流」と表現できないのが残念。上流に新しい街が次つぎできていくんだって。水の音を聞き、兩岸にせまる緑の山肌を眺め、高い青空を仰いでいるとそれでも別世界。緑にもなんとさまざまあることか！ この辺りの山は木の種類がとて多いそうです。

河原でお弁当を食べて午後の徒歩列車出発。初夏の太陽でも汗だく。そんなときに出会うトンネルのなんとうれいことか。いくつか通り抜けたなかには、出口も入口も見えなくなる長いものあって、暗黒の世界も体験。「光を消してごらんさい。暗闇のなかでも見えてきますよ」との先生のアドバイス。文明の明るさばかりに気を

秋の黄土高原ワーキングツアー

「植樹には中旬のほうがいい」と大同からファックスがはいり、前号のお知らせから、日程が変わりました。ご注意ください。

●日時：10月10日(木)～17日(木)

●費用：一般 185,000円
学生 175,000円

※関西国際空港発着。成田空港発着希望の方は、ご相談に応じます。

●申込み締め切り：9月10日

●申込み・問合せはGEN事務所まで。

とられている私たち。含蓄ある言葉だなー。ひんやりした空気なかで、足音だけを聞きながら目でつぶって闇を味わってしまう。

武田尾駅で解散した後、小さな温泉で汗を流して最高！

そうそうもちろん木の勉強もしっかりやりました。目で見て、手で触って、舌で味わって...つまり五感をとおして知ることが大切。ニガキは苦かったし、スイカズラは花を吸うと甘かった。学問のお話は頭を素通りしてしまっただけ、ととても楽しい充実した1日でした。石原先生ありがとうございました。

世界の森林と日本の森林（その2）

立花 吉茂（緑の地球ネットワーク代表）

日本は全土森林だった

農耕をおこなう以前の日本は全土が森林でおおわれていたらしい。その証拠は、現在の植生から察することができるし、雨量指数や乾湿指数などの推定からも、また全国の社寺林にその断片が残っていることなどからもうかがい知ることができる（図1）。その当時の樹種がほとんど生きて残っているのもまことにありがたいことである。もし、社寺林がなかったら、原生林は復活できないことになるであろう。

現在の植生は低地では、雑木林と呼ばれる二次林か、杉、桧の植林地である。高地は手つかずの自然が残っている場所もあるが、背丈の低い林か、低木草本、岩石露出といった自然の場所が多い。

伐採以前の原生林はその数がきわめて多い多層構造の森林であったと考えられるが、伐採した跡地と考えられる低地の二次林でもその種類数はけっこう多い。もっとも少ないのが植林地であり、杉か桧が1種だけという姿である。多様性に富む日本の自然をたった1種という単純植生にしても大丈夫なのであろうか。しかも、間引きさえし

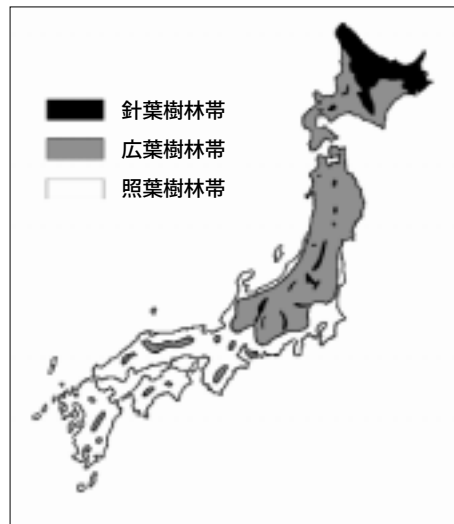
ていない密植状態で放置されている場所がけっこう多いのである。

植えるより切るな

メキシコで「樹木を切ったらその5倍植えなければならない」と聞いたことがある。山奥へ入るとそんなことに無頓着に伐採しているのも見かけたが、雨の少ない地方が多い国だけに、植樹の意義は大きいと思う。われわれが、毎年緑化協力している黄土高原はもうずいぶん昔に切ってしまった場所だから、同じように植樹の意義は大きい。

しかし、世界でただ1国、植えるよりも、切らない方が良い、といえる国がある。それがわが日本である。山火事で植生が失われても、翌年に行ってみると、もう草がいっぱい生えている。数年後に訪ねるともう樹木が背丈よりも大きく育っている。これは誰が植えたのでもない。自然が復活しようとしているのである。しかし、よく見ると最初に茂っていた木と種類が違ふ。先駆植物と呼ばれる陽生植物群である。やがてアカマツなどの多い二次林となって、数百年後には元の森林に戻るはずである。遷移によって元に戻るといっても、何百年もかかるのである。植林しようとしても、杉や桧なら植えられても、日本の自然林はそんな単純なものではない。複雑に多数の種類が組み合わされた日本の自然の植生を簡単に人手で再現できるものではない。高木だけで600種もあり、低木を加えたら何千種にたつする。狭い面積でも数十種はあるだろう。種子の発芽の性質もよく解っていないものが多い。何の利益もない雑木、雑草なんて調べなくてもいい、というわけだったのだろう。しかし、時間さえかければ植えなくても勝手に復活するのである。だから「植えるよりも、切るな」ということになるのである。

図1 日本の三大樹林帯



助成金・寄付金

ご協力ありがとうございます

- 国際開発救援財団
1,722,000円の助成が決まりました。
- 郵政省国際ボランティア貯金
9,086,000円の配分が決まりました。
- 地球環境基金
550万円の助成が決まりました。
- 全労済 環境保全活動に対する助成特別助成50万円が決まりました。
- NTTから50万円の寄付がありました。
- 大阪鶴見ロータリークラブから235,000円、アシュフィールドロータリークラブ（オーストラリア）から121,265円の寄付がありました。
- オーストラリアのAFロータリーク

ラブは、来日していたメンバーが鶴見ロータリークラブでGENの活動を知り、黄土高原の緑化にぜひ協力したいと申し出てくださいました。協力者が南半球にもひろがり、まさに“地球環境のための国境を越えた民衆の協力”、を実感しました。

マツの苗木119万本分に！ 使用済みテレカが こんなに役立ちます

このあいだまで、ただでさえ狭い事務所はいくつもの段ボール箱でより狭くなっていました。そう、みなさんから送られてきた使用済みテレカです。1枚1枚、使ったものがたまるたび

つてくださった方、電話ボックスで拾ってくれた方、学校や職場で集めていただいた方、整理してくださった方...と数えていったら、ここ半年で事務所に届いた102,000枚あまりの使用済みカードは、いったい何人の気持ちの集まりだったのでしょ。

今回、NTTが回収をはじめ買い取り価格があがり、オレンジカードなどテレカ以外のカードもあわせて102,000枚が、1,192,000円になりました。みなさん、ご協力ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

牛乳パックに貼って使えるテレカ回収用のラベルを事務所に用意しています。ご希望の方はGEN事務所までご連絡ください。



関東ランチ始動！

お気軽にご参加を

春4月、ワーキングツアーの帰り道、新幹線の車内で生まれたささやかな構想が、いよいよ現実のものとなりました。

去る5月25日（土）立教大学5号館において、記念すべきGEN関東ランチ（仮称）の第1回交流会がおこなわれました。当日は、会報の予告記事などをつうじて参加された方と、今回の交流会の呼びかけ人である上田信先生（立教大学助教授）の教え子の現役立大生の方々を中心に20名の参加があり、また、大阪から急遽高見事務局長も駆けつけ、黄土高原緑化の現状をまとめたビデオの上映や、高見事務局長・上田先生のお話をしたじきとして、各参加者にそれぞれ、「緑の原体験」を語っていただきました。そこで聞くこと

のできた発言の数々は、参加した人の胸に響く素敵な、そして考えさせられる内容のものばかりで、「緑」というかけがえのない自然環境がいかにかの生命や生き方を豊かにするものなのか、改めて問い直すきっかけとなりえたように思われました。

午後の6時にひとまず交流会は終わりましたが結局、ほぼ全員の参加者が2次会へと突入（？）し、そこでも「緑」をキーワードとした実りのある会話が酒宴に彩りをそえて繰りひろげられ、日付の変わる直前まで語らいが止むことはありませんでした。今回は初めての関東地区での交流会ということで不手際もあったことと思いますが、参加者のみなさんの緑にかける想いに助けられるかたちで、なんとか交流会

を成功のうちに終了させることができました。これからも、関東ランチ（仮称）ではさまざまな活動を予定しています。非会員の方の参加も可能ですので、関東地区に在住の方はお気軽にご参加ください。（工藤寛之）

お手玉づくり大会

春の黄土高原ワーキングツアーに参加したUさん、「お手玉をおみやげにあげたら喜ばれたんですよ」とメッセージをそえて、端切れをたくさん送っていただきました。寒い冬でも家のなかで遊べるし、秋のツアーのおみやげにぴったり！ というわけで、お手玉づくりをしませんか。

- 日時：8月24日（土）13時30分～16時
- 場所：GEN事務所（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ）
- 針をご持参ください。端切れ・あずきがある方はいっしょにお持ちくださるとたすかります。

緑の中国 歴史篇 6

上田 信（立教大学助教授）

中国の北部に広がる黄土高原。今そこを訪れても、森らしきものを見ることはできません。しかし、むかしもそうだったのでしょか。今から3000年ほどまえには、どんな景観が広がっていたのでしょうか。

むかしにも森はなかった、と主張する研究者もいます。黄土高原に森林が存在しないのは、中国北部が乾燥しているからです。年間降水量400ミリ程度では、せいぜい樹木が点在するサバンナにしかありません。しかも、中国北部が乾燥している理由は、地球規模の大気の流れに求められます。赤道の北を西から東へと流れる赤道西風がインド洋で水分を補給し、ヒマラヤ山脈とチベット高原を迂回してから、中国の平野部を北上する、これが中国に雨をもたらすのですが、この湿った空気の動きも、モンゴル高原から中国へと吹き寄せる中緯度偏西風に阻まれて、秦嶺山脈と淮河とを結ぶ線のあたりで停滞してしまい、その線から北にはほ

んど水分を供給しません。この大気の仕組みは、千年単位の時間では変化しません。だから、むかしも華北は雨が少なかったと考えるのです。

しかし、3000年くらいむかしには、華北は落葉広葉樹の林に覆われていたと主張する研究者もいます。たしかに外部から華北平原や黄土高原にもたらされる水分は少なかったかもしれない、しかし、限られた水分であっても、蒸発し雲をつくって雨となる循環が存在していれば、降水量は多くなるのだというのです。森林は水の循環を生み出します。おおよその数値ですが、降雨を100とすると、森林の葉や梢にとどまり、そこで蒸発する水分は、20から40、土壌から樹木が吸い上げて、葉の気孔ををとおして蒸散される水分は、木にどれだけ葉が茂っているかによって異なりますが、20から80になるといいます。条件がそろえば、降水量のほとんどすべてが、大空に戻っていき、そこで雲を生成することになります。

沙漠化地域の生活と環境 黄土高原緑化協力の現地にもみる

GENの緑化協力地、大同周辺の実状をふまえて、環境破壊と生活の貧困の悪循環、それを断ち切る方策などを、ワーキングツアーで現地を見てこられた小川房人さん、樋田勲さんを中心に考察・討論してみたいと思います。

- 日時：9月24日（火）18時30分～
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター（ORC200ビル7階。JR環状線「弁天町」駅北出口・地下鉄中央線同駅2A出口から直通路あり）
- 講師：小川房人さん（大阪市立大学名誉教授）
樋田勲さん（京都精華大学教員）
- 参加費：700円
- 問合せ：GEN事務所まで（TEL. 06-583-1719 FAX. 06-583-1739）

貝澤耕一さん

『二風谷ダム』を語る



民族文化の破壊という独自の視点でダム問題を話し合う

チコロナイ部会現地世話人の貝澤耕一さんが来阪、大阪市立弁天町市民学習センターで6月14日開かれた「二風谷ダムを考える会」(同会実行委員会

主催)で講演した。貝澤さんはダム建設に反対し、強制収用された土地を取り戻すために行政訴訟中。約50人の参加者に「ダムは自然とアイヌの文化を破壊している」と訴えた。

二風谷ダムは北海道平取町二風谷の沙流川で1987年着工。当初は約30キロ西方の苫小牧東部大規模工業基地の工業用水確保が目的だったが、同基地の計画が大幅に縮小されたのに伴い、主目的は工業用水確保から治水に変わった。現在、工事はほぼ終了、今年4月には試験湛水が始まり、アイヌ民族のチノ

ミシリ(祈りの地)の一部やチプサンケ(舟おろしの儀式)の場所もダム湖に沈んだ。

貝澤さんはまず、「二風谷は世界で一番アイヌの多い集落。ダム建設はこの二風谷の地域文化を破壊している。つまりはアイヌ民族の文化を破壊している」と、アイヌ民族の立場から批判。「北海道は緑が多いように見えるが人工林ばかりで、さらに大きな木は伐採されている。子どもたちのためにもこれ以上自然を壊してはいけない」と自然保護の面からも反対した。

また、生活のためダム工事に関わっているのに表だって反対の声をあげられない住民がいるなど地元の現状も報告。講演後の質疑応答では参加者から貝澤さんへの賛同意見が多数でた。(チコロナイ部会担当世話人 岡田光司)



ムダなダム

松山 五郎 (元教員)

6月17日。北海道富川駅からタクシーで二風谷に向かった。海岸沿いに東進、まもなく進路を北にとると、そこには沙流川の穏やかなたたずまいがあった。約10か月ぶりに見る北海道の初夏。山々の緑が若々しくて色数が多い。

平取の集落を通り過ぎて橋を渡り二風谷へ近づく。もう二風谷ダムが見えてきた。川の風景を横一文字に遮る巨大建物だ。タクシーの運転手さんとダムのことを話題にする。「ホテルみたいな」と言うと彼は「いいえ、まるでモーターですよ」という。そういえば山陽路にブルーシャトーというモーターがあったのを思い出す。青色の屋根をあしらったものであったが、こちらは緑色の屋根が並び、間に小窓があるようにみえる。さしづめグリーンシャトーとも名づけたらいいのか。沙流川の景色にグリーンシャトーが似合っているとも思えないが、川下から眺める限り、そこにダムがあるようには見

えない。いったい誰の、そしてどのような意志によるデザインなのだろうか。

ダムの東側に現場事務所の建物がある。いわゆる飯場である。私は、土木工事の現場事務所が粗末でよいというつもりは決してないが、それにしてもここ二風谷ダムの事務所は、すぎる程のぜいたくを見せつけてくれる。一見、ステンレス製のような質感を持ち、壁面もなかなか芸術的で、ここまでやるかという感じである。地元では小学校の校庭が湖岸になって危険なので、防護用のフェンスを張ったのであるが、学校のフェンスは簡単なもの、かたや、事務所の周囲のフェンスの頑丈そうなこと。それ自体「無目的ダム」との悪評高いこのダム、どれをとってみても、このダムには税金がムダに使われているとい



試験湛水中の二風谷ダム

う思いをさせられる。

目下、試験湛水中ということで、まだ満水にはなっていない。あとひと月余りで、あのチプサンケ(アイヌの舟おろし祭)の日が来るが、それについてダムサイトはそしらぬ顔のようである。今年のチプサンケはどうなるのか、今のところわからない。

私は、今年も、8月20日のチプサンケの日を二風谷で迎えたいと思う。

北海道の森からの手紙

全国の皆さん、ドキュメンタリー映画『森と出会うー大雪・トムラウシ』の制作にご協力下さい！

北海道は新得町在住の記録映画監督、藤本幸久氏を中心に発足した「新得ドキュメント映画の会」でこの映画の制作を進めています。いよいよこの夏、撮影に入ります。1年かけてトムラウシの魅力にとことん迫るつもりです。

雄大な大雪の山並み、6キロメートルも続くお花畑や、ナキウサギ、ウスバキチョウなど、氷河時代の生き残りたちにも出会えるかもしれません。そして今回、屋久島の縄文杉と同じ価値を持つ、十勝川源流部の針葉樹の原生林に、初めて映画のカメラが入ります。幹の太さが大人の背丈よりも大きなエゾマツ。そのエゾマツが命をまっとうして倒れ、その木肌に、数十年かけて次の世代が育っていきます。このよう

な営みを、太古の昔から森は続けてきたのです。森とは何なのかを、何千年も続いてきた原始の森の中で考えたいのです。

そこで、この映画作りに賛同してくださる方に、1口1万円の御協力をお願いしています。御協力下さった方には、完成上映会に御招待する他、ビデオ化された時に、ビデオを1本贈呈いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

1996年7月1日

●問い合わせ先

新得ドキュメント映画の会 林 繁雄
 北海道上川郡新得町4条南2丁目
 TEL. 01566-4-5921
 振込先
 帯広信用金庫新得支店
 普 1039856
 新得ドキュメント映画の会

チコロナイ・アイヌ語講座 - いやでもわかるアイヌ語 - 第6回

- 日時：7月27日（土）14時～16時
- 場所：GEN事務所（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ）
- 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
- 資料代：1期（6回分）で2,000円
- ★1回だけの参加でもOKです。お気軽にどうぞ。
- 8月はお休み。9月から2期をはじめます。
- 9月28日（土）14時～16時



チコロナイ学習会のご案内

- 食べもの篇、今回は実践！ アイヌ料理をいっしょにつくってみませんか。
- MENU
いなきびごはん
シト（いなきびだんご）
マンロークッキー
 - 日時：7月28日（日）9時30分～12時
 - 場所：GEN事務所
 - 材料費：500円
 - 連絡先：武田繁典（TEL./FAX. 06-704-7720）
 - 申込み締切り：7月25日（多数の場合はお断りすることがあります）
 - ★終了後、アルカイクホールでの舞踊公演に行きます。
 - 8月はお休みです。9月の第15回は9月28日（土）16時～18時

NOTICE

アイヌ語講座とチコロナイ学習会は8月はおやすみです！ おまぢがえのないようにしてください。
 9月は第4土曜日におこないます。

チコロナイ第2期 現在の状況

7月1日までで
 327人、1,280,440円
 第1期の繰越金を合わせて
 2,045,419円になりました。
 郵便振替 00900-2-52024 番イイ

故郷忘れ難く候へば鳥雲に

～こころのふるさとを求めて～

尼崎麒麟の会

アイヌ古式舞踊と琉球古典舞踊の共演

二風谷から、平取アイヌ文化保存会の貝澤耕一さんたちがやってきます。アイヌ古式舞踊と琉球古典舞踊の競演を楽しみませんか。

- 日時：7月28日（日）午後2時開演
- 場所：アルカイクホール（阪神「尼崎」駅より北東へ400m）
- 参加費：無料。整理券必要。
- 申込み：TEL. 06-499-3521まで。

沖縄の

醗酵ウコン茶のご案内

日本人にもっとも不足しがちなカルシウムや、カリウム、マグネシウムなどの天然ミネラルを豊富にふくんだ醗酵ウコン茶。その他、肝臓のはたらきを強化するクルクミンという糖質も多くふくまれています。

英名をターメリックといえば思い当たる方もおいででしょう。カレーのスパイスや、染料としてもつかわれていますね。中国や琉球では昔から薬草として珍重されてきました。そのウコンに独自の加工をほどこして、飲みやすい醗酵茶になりました。

沖縄県が基地返還後、地場産業の柱に育てたいと意気込む健康茶です。

- 沖縄県物産公社 醗酵ウコン茶
2g×60袋入 3,500円（税別）
※送料は300～390円

- お申し込みは板坂靖彦さんまで
〒665 兵庫県宝塚市川面1-2-13
TEL./FAX. 0797-86-5202

※売上の一部をGENの緑化基金に寄付していただきます。「GENの紹介」と一言添えてお申し込みください。



国際交流スタッフへのアクセス
 ～国際交流・国際協力団体に
 就職を考える人へのガイダンス～

- 講師

雨森 孝悦さん	とよなか国際交流協会
近藤 ルミさん	国際子ども権利センター
鶴田 厚子さん	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
松室淳一郎さん	大阪府国際交流財団
有田 典代さん	関西国際交流団体協議会
- 日時：7月28日(日) 13時～17時
- 場所：大阪国際交流センター(地下鉄谷町線・千日前線「谷町9丁目」駅から徒歩10分、近鉄「上本町」駅から徒歩5分)

- 対象：国際交流団体、国際協力団体のスタッフになりたいと希望している学生や社会人など。
- 参加費：1200円
- 定員：150名(定員になり次第締め切ります)
- 応募方法：往復ハガキに①住所、②氏名、③年齢、④電話番号、⑤このセミナーへの参加動機、⑥国際交流・国際協力のなかで関心のある分野を明記のうえ、下記まで郵送してください。
- 応募・問い合わせ先
 関西国際交流団体協議会
 〒543 大阪市天王寺区上本町8-2-6
 大阪国際交流センター2F
 TEL.06-773-0256 FAX.06-773-8422

“黄土高原村祭り”
イベント

GEN世話人の深尾葉子さんが所属する“黄土高原文化交流協会”が、10月末から11月にかけて、山西省のおとなり、陝西省榆林地区から文芸工作団を

- まねいて歌や踊り、腰鼓、古典劇の公演をおこないます。
- それに先がけて、9月にイベントがふたつ開催されます。
- ★講演会「黄土高原と現代中国映画」
- 日時：9月7日(土) 18時30分～
 - 講師：刈間文俊氏(東京大学助教授)
 - 会場：INAX大阪ショールーム1F(大阪四つ橋)
 - 参加費：2,000円(ドリンク、粟粥つき)
 - 定員：50名(先着順)
 - 申込み：INAXギャラリー西村さんまで。TEL.06-539-3518
- ★講演+実演「黄土高原の食文化」
- 講師：石毛直道氏(国立民族学博物館教授)
 - 日時：9月14日(土) 14時～
 - 場所：大阪ガスDILIPA(万博公園内)
 - 参加費：2,000円(押し出し麺、粟粥の試食つき)
 - 定員：150名(先着順)
 - 申込み：黄土高原文化交流協会戸村さんまで。TEL.078-271-1461